

分野（１）

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び

事業内容の改善方法に関する調査研究

② 健康診査事業の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究

研 究 課 題 名： 気管支喘息のテーラーメイド的予知に基づく発症予防法と

QOL調査票を導入した独創的評価法の確立に関する調査研究

調査研究代表者氏名： 近 藤 直 実

評価コメント

○興味ある研究であり、今日的なテーマである。

○遺伝子プロフィールによるグループ化は独創的である。今後は遺伝子の機能評価と欧米人との差異を明らかに出来る可能性があり期待される。今後の研究で介入成績のフォローアップやTailored Predictor の同定が解明できればなお成果が大きくなろう。また検査コストの軽減や遺伝子情報の流出防止対策への配慮を注意点として指摘したい。

○先明性のある研究として評価する。今後、実用化に向けての課題解消に取り組んでほしい。

○気管支喘息の発症予防に、遺伝子レベルの検査値を用いてテーラーメイド的に指導をおこなおうという試みで、発展が期待できる。多因子の遺伝子が関与している可能性もあり、その評価は難しいが、今後は症例数を増やして、その手法を確立することが望まれる。また、日本人固有の遺伝子多型の問題もあり、今後研究を継続する必要がある。

○これまで、一貫してアレルギー疾患の遺伝子多型の研究に取り組んできて、ある程度の成果を得たことは評価できる。喘息発症の予知パネルに多くの指標を取り入れて解析するやり方は合理的で正しい方法である。優れた予知プログラムを作成するためには、各因子の適切なスコア化を図ることが重要である。

○遺伝子多型の研究は、労力やコストのかかる研究であり、現時点で優れた予知をうるほどのマーカーを見つけることに多くの期待をかけようとは思わない。しかし、重要なテーマなので、根気よく研究を続けてほしい。

○斬新的な研究であるが、環境保健対策の推進に現状で、どのような貢献がえられるのかについては未知数である。しかし、研究の進展により、喘息発症の予備軍が簡便に予知できる方法が確立されれば画期的であり、それに基づいて対策を講ずることができるので有用である。

○この研究費を用いたこれまでの研究にはない、より基礎的な角度からの研究であり、その成果が期待される。10種類にも及ぶDNAのSNIPの実施は本法人の事業経費からみても実用的にはかなりの道のりが予想される。最終的にはSNIPをグループ別にまとめ、問診、症状所見等と関連させて実用的なオーダーメイドの指標として整理され、QOL調査票を用いたその評価も含め、発症予防のための指導に役立つ教材が作成されることを期待する。実用的な指針の完成には研究費と時間が予想されるが、重要な研究と考えられる。